

## 第1回 大阪湾港湾等における高潮対策検討委員会 要 旨

- 「大阪湾港湾等における高潮対策検討委員会」の設置  
背景、実施方針、検討委員会開催の今後の予定、委員会の体制、港湾管理者ごとに部会を設け地域特性を踏まえた対策を検討することが報告された。
  
- 台風第21号の概要  
大阪管区気象台より台風第21号の概要報告がされた。
  - ・台風第21号は、9月4日12時頃、非常に強い勢力で徳島県南部に上陸した後、14時頃、神戸市付近に上陸し、速度を上げながら近畿地方を縦断した。
  - ・台風の接近・通過に伴って、西日本から北日本にかけて非常に強い風が吹き、非常に激しい雨が降った。
  - ・近畿地方には、非常に強い勢力で接近し、猛烈な風が吹き、猛烈な雨が降った。第二室戸と酷似した進路であったこと、時速約55～65キロという比較的速いスピードで通過したことから、台風接近前後で急激に風が強まり、過去の最大風速の記録を各地で更新した。また、台風が高潮の起きやすい進路をたどったことにより、大阪湾を中心に記録的な高潮となり、大阪、神戸、御坊、白浜、串本、阿波由岐では過去の最高潮位を超えた。
  
- 台風第21号による被害と対応  
近畿地方整備局および各港湾管理者より被害の概要および台風来襲時、被災後の対応が報告された。
  - ・港湾土木施設被害は、護岸・柵、防波堤などの損壊、陸閘の倒壊のほかに、強風により、臨港道路を通行止めとした場所もある。民間施設・設備においても被害があった。

- ・大阪湾内で浸水し、浸水個所の多くは堤外地である。神戸港、尼崎西宮芦屋港での浸水が顕著である。
- ・台風による被害は、トレーラーの横転、船舶の漂流・打ち上げ、空コンテナの倒壊・流出、クレーンの損傷・倒壊、車両の火災、電源施設の機能喪失などであった。
- ・漂流コンテナは、9月16日時点で船舶の航行に支障の無いよう回収された。

## ○今後の方向性

### ① 今回の海象条件の再現

潮位・波浪の再現計算と現地浸水調査とのフィッティング

### ② 今回の高潮被害の検証

- ・これまでの施設整備（ハード整備）の効果の検証
- ・被害状況の正確な把握
- ・フェーズ別高潮対応計画の検証
- ・港湾物流への影響の確認（経済的被害額の算定などによる）

### ③ 今後の対策

- ・短期的な対策

コンテナや荷役機械の固縛や固定方法の再検討などの対策

- ・中期的な対策

岸壁等の設計天端高さの考え方の整理や電力・電源施設の浸水対策等の検討

### ④ 再発防止体制の構築

各港湾管理者や阪神国際港湾(株)等の直接的な関係者のみならず民間事業等とも連携した再発防止体制を構築